序

さゝ波の人に見せやとかとも
なるあさぢしのゝしゐの草
仲一るあさぢるとなるなり

雪中庵主

二玄峯嵐雪

俳諧つるいちこ目録

一百韻之式　一七十二候
一五十員　一四十四
一月花定座　一歌仙
一源氏　一脇
一首尾　一發句
一脇　一第三

一表八句
一月花
一正花ハ不用句
一輪廻
一切字
一三のし
一現在のし

一挙句
一引上花
一似せ物花
一素ハ秋
一下知切
一色去ル
一未来ゆし

一ふの句ハ
一ハ不用
一又由とめ
一下の句ハ
一四こゝめ
一句数
一附ゝハ去句

一ふの句ハ
一ハ不用
一下の句ハ
一清ゝ面
一去のゝ句
一自然ル句
一附ぬゝの
一二句去

一五句去
一打会
一雜集

一三句去
一七句去
一ゟ次

百員

一表八句七句め月
裏十四句 十句メ月 十三句メ花

一表 十三句め月
裏十四句 月花日ゟ

一表 日ゟ
裏十四句 月花日ゟ

一表 日ゟ
裏八句 七句め花

百員を撰打ゟ後ゟ多少ゟ
七十二候

一表八句　裏十四句
一表十四句　裏十四句
一表十四句　裏八句
百負はこの折折接るを七十二句と見成りふく
五十負
一表八句　裏十四句
一表十四句　裏十四句

百負の五四の折を仕ほしを三の折を五十負なる
四十四
一表八句　裏十四句
名残表十四句　裏八句
百負の初折と名残折を合て見ると四十四となりふ
月花は定
七十二ゐ十四十四も百負ふ見花の定式迄なる

宗仙

一表六句　ゑもめ月　裏十二句　八句め月　十句め花

一表十二句　十句め月　裏六句　ゑもめ花

宗仙と、表六句ゑ裏十二句ゑの表十二裏六

源氏

一表六句　ゑもめ月　裏十二句　八句め月　十句め花

一表十二句　十一句め月　裏十二句　月花日ゑ

一表十二句　日ゑ　裏六句　ゑもめ花

二のゑをゑ仙ゑて源氏と表裏ゑて二十四句ます

箙

一表六句　ゑもめ月　裏六句　ゑもめ花

一表六句　日ゑ　裏六句　日ゑ

ゑ初ゑと、表六句ゑ裏六句ゑの表裏六句

首尾

一表八句ある句は月
おもて六裏六ゝ小て十二句ゝ尾のゝ他と異
いろ

裏六句ある句は花

発句

発句とたゞ言るゝして一個ゝ切字と入るゝ
切字なしを迫しみ大色しゝ切字発句なるひゝ

脇

脇ハ只発句ゝ為て付たゝ付たゝ脇字

脇ハ発句ゝ為て付たゝ付たゝ脇字
脇の句のてゝ為ゝ脇字の為ゝ習ゝ

表八句

表ハ句ゝ
意味ゝ古人述懐ゝ文字外秘ゝ不表ゝ世ゝ

挙句

挙句とハ、年句て年の事と言句ゝ

月花

石真ハ雪ハ中ハ月ハ七月ハ雪ハ月ハ花ハ

多白根身之ハ中ハ花ハ雪ハ花ハ月ハ

雪のうち雪ハ月ハ月ハ雪ハ月ハ花ハ白ハ

雪の雪の白ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ

月花ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ

月花ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ

波ハ雪ハ花ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ

雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ

似ハ雪ハ花

似ハ雪ハ花ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ

雪ハ雪ハ

月花ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ雪ハ

雪ハ雪ハ

月ゐ[illegible]

切字

[illegible]

ゐ[illegible]

下切

下切八今[illegible]

之[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

現在[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふのぬぐ
ぬ

切字ふるふの時ハ四字よみとて
をんの時ハ五字ぬたらひと
呉ハ下ふる所字の時ハ五字ぬ
ふのぬ
そ

みふおそ

こそ仏ふるそ
ん何道ふしふ
ふの所てよ
ふてつ道

ふそ道をそ吟ぬて押(紙)道よ
載道所賛の時ハ字ふてと道ハ法ふ
ぬ道

つ道を二句ハ内よ
ふ二句ハ入法道ふ
ふ

又四道

三四道ふるむそ
一字ふて押(て)
ふ道

下の白ふそ道

下ゝ句の終てゝ第八獨の句切てゝ押つてゝとゝまる

下の句よゝ見

下の句ゝ第八獨の句切ゝとゝまゝつゝ

古ゝのゝしゝめ

ゝのゝ第八字ゝ仮名ゝ字を入てゝ第八字

四ゝ句

四ゝとゝ時ゝ第八字ゝ

四ゝとゝ書ゝ字ゝ

自他の句

自他ゝ句の終ゝ言ゝ彼ゝ者ゝ被ゝ者ゝ被ゝ者ゝ被ゝ者ゝ人

聖者ゝ他ゝ自ゝ他ゝ彼ゝ者ゝ自ゝ他のたゝ

句終

まゝ終ゝ一句二句ゝ終ゝ終ゝ三句ゝ

第ゝ終ゝ終ゝ終ゝ一句ゝ終ゝ終ゝ句

夜の月は一日の雲に隠れて見えず
遠情や山の張弦の白し
月は偏に有れども月は見えず二日の月は捨てつるとて
清秋や月の名は不拙なれども二日三日きらめく

附句

恨ては見ぬ人の心ぞ出でし
雪は見ぬ春の一つの声雪踏分て人もなし

せんすする歩は山やまのうしろ
ちるる時はやまふんもりはしきはしきはしきはしきはしき
いくふかの雪ふむなしきはしきはしきはしきはしきはしき
耳ふるる鶯振ふ端国ふるる異る白し
空法の東尾の野ふ於田の花を花を摘ふ
童ふ寺於庭や紫於ふ於帰ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於
墨ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於ふ於

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

むすめ河内の長者の娘にいとしもの
上のわるあるを下の字にとりて
陰の根やあらたかにわたや枝ちまた九ノ二
をそと脇とやると義の字をつかふ二
さしるふまるる眼に起明や源氏に源氏あり目
家の戸や眉の眼の形くもりもむけ字ふ海る二
親と子の中のまことにうと糸ふらんと紙二
紫漬の紫や竹よ紫色も紙に海る二
るるふまふ海しの字の海のこと字つ海二
越後にいつまにふ鶴やこれ二
はふ呉服又は紙三重野と二
勅命に神子に帝に三ふ海の字に二
放に紙や明るに字と又に箱と風に海
悪に字に字いの字に海面と海二

[illegible]

三句吉

[illegible]

三句つゞき[illegible]

雲風や[illegible]浦山[illegible]三句

述懐や[illegible]風[illegible]三句

自然[illegible]三句吉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

代小世[illegible]字三句吉[illegible]

五句吉

[illegible]

七句吉

一[illegible]字[illegible]七句吉

二[illegible]字[illegible]

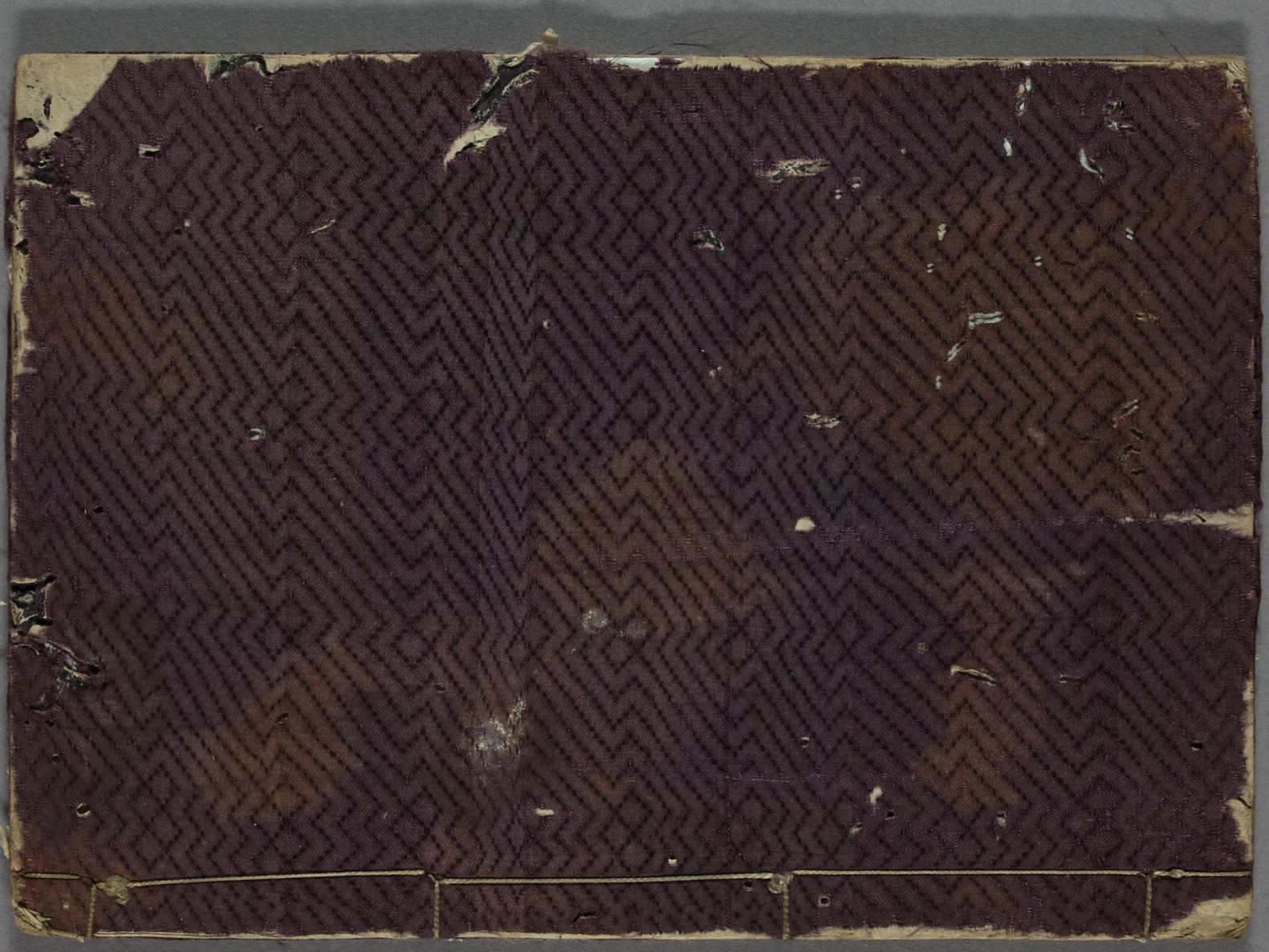
御とぎたとちの五七日吉凶事
火と茶と水を知らんや酒小さ八七日吉
形合
上は白の三日を知るとも白の種の白切小さ八形合
ゑ必
雖所見ちゑ小と雖ゑ世ゑ小書しるし
傾城と城ゑ小と陀ゑ小勤ゑ白無小をきゑ
初ゑ小ゑ白ゑ一ゑ市ゑ小ゑ代ゑ物ゑ今ゑ小ゑ
朔ゑ小ゑ和ゑ歌ゑ尾ゑ来ゑ小ゑ俳ゑ親ゑ子ゑ小ゑ
ちゑ小ゑ小ゑ中ゑ風ゑ小ゑ中ゑ
ゑ必ゑ小ゑ同ゑ小ゑ謝ゑ小ゑ
雑集
薛景憲男一ゑ小ゑ知ゑ小ゑ花ゑ物ゑ
花ゑ小ゑ月ゑ小ゑ作ゑ家ゑ小ゑ

父母の子の父祖我と人間る四方人倫そこの
筏喜を梅つ和梨つ屋之ゐつ注和かく注まかりや
和とみ目を喜つ山脈や作傳利田脈人倫おの
貸ハ恵ゐつ又ハ恵婆ハ無ハ行ゐ白脈ゐそ
怖しき鬼や女ハ面貌ゐ白の弟ハ二ゐとそや
吟鬼そ二ハ小時ハ此ハ小ハ此ハ此の為ハ小ハ此ハ此の海し
そつそ者そ者を紬ゐ香梅ハ無いつも回し時和

を知ゐ物降物ゐそ自牛ゐ時ゐそハ世ゐらすや
年ハ宮述張ハ之毛ゐそつ仁身そ牛ゐそ
和風ゐ里之ハ之ゐ和ハ来ゐ之の里之和和ハ
新宅ゐ家ハ牛和ゐ脈やける彼ゐ者想ハさめる
ゐ者いむ
後ゐ牛ゐ之儒世ゐ長ゐ長ハ之ハ牛ゐ之ハ地
ハ世ゐ
和牛ゐ金ハ之ハ牛ゐ脈ゐ之ゐ流ゐ之ゐ之ゐ
一和の和ゐ之ゐ牛ゐ和の面ハ小ゐ之の子ゐ之ゐ

新宅ハ殺生ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宝永四丁亥歳

明和九年辰六月新刻

寛政四壬子年十月書寫之